

第2節 新生産方法が存在する場合の独占企業の投資行動

課題：技術進歩・新生産方法が存在する場合の独占企業の投資行動

- ⎧ 新生産方法の導入と普及の過程の特徴
- ⎧ 競争段階の競争的企業の投資行動との差異
- ⎧ 独占企業の投資行動の基本的特徴の貫徹と修正

新技術の開発過程の独占段階の特徴→(1)

需要条件の想定

1. 産業需要が停滞的で、需要拡大が一時的あるいは恒常的であっても小幅→(2)
2. 需要規模の大幅な拡大→(3)

第2節の位置づけ（第3章との関係）

新生産方法の導入をめぐる投資行動と競争

競争段階：

市場の全般的停滞下

→ _____ 剰余価値の獲得をめぐる競争

→ 設備投資競争(競争の第1局面と第2局面)→設備投資の _____ 的展開

→ 関連部門への群的な _____ の波及→関連部門における生産拡大・投資拡大を _____

→ 経済全体の停滞からの回復

* 競争段階の資本主義の停滞からの自動的回復メカニズム⇒第3章 序節 (Text 第4章)

独占段階：

新生産方法の存在

市場の全般的停滞下では設備投資の _____ 的展開の促進要因と _____

= 停滞からの自動回復メカニズムの _____ ⇒ _____ の支配⇒第3章 第1節

市場の大幅拡大時→競争段階をはるかに上回る大規模な設備投資競争が現実化

* 一定の条件が与えられた場合のみ

独占段階特有の急速な経済成長が現実化⇒第3章 第2節

(1) 独占資本主義における新技術開発

① 独占企業の下での技術開発過程の社会化

(a) 一般的傾向

新技術のたえざる導入と普及の傾向⇒新技術の発明・開発と科学研究の促進

1. 新技術のたえざる導入と普及の傾向

資本主義的生産の発展過程：

最大限の価値増殖のために _____ をたえず導入・普及していく傾向

これを個別資本に促進・強制していく社会的メカニズム

= 特別剰余価値の獲得をめぐる諸資本の _____

2. 新技術の発明・開発と科学研究の促進

優秀な生産方法の率先的導入

⇒ 特別剰余価値の獲得 = _____ で優位に立てる

⇒ 新技術の発明・開発の促進

⇒ その基礎としての _____ 研究の発展を刺激

(b) 産業革命期の新技術

個人による発明・開発

綿織物業：ジョン・ケイの飛び杼，ハーグリーブズの多軸紡績機，アークライトの水力紡績機，クロンプトンのミュール紡績機，カートライトの力織機など

蒸気機関：ニューコメンの蒸気ポンプ，ワットの蒸気機関，トレヴィシックの蒸気機関車・ステイーヴンソンの蒸気機関車，フルトンの蒸気船など

(c) 独占段階特有の技術開発・科学研究の促進

1. 独占企業による組織的・系統的な新技術の発明・開発

巨大独占企業による多数の科学者・技術者と大規模な研究・実験設備の結合

⇒ 生産過程に適用される技術の量・質の豊富化

⇒ _____ が発明・開発の有力な担い手

2. 技術開発の刺激・促進

生産方法のたえざる改良と資本の _____ ・ _____ との相互促進的進展

⇒ 巨大独占資本の形成

⇒ { 大規模な生産組織と多面的な科学・技術の発展の成果を蓄積
資本グループ内での高度で多面的な技術の交流・相互利用
巨額の資本によって新技術の具体化の可能性が高まる

⇒ 巨額の資本を必要とする _____ を刺激・促進

3. 技術開発過程の独占の有利性

優れた新技術の独占

⇒ 参入 _____ の高度化と市場 _____ の拡大

⇒独占資本としての地位を確保・強化

⇒独占利潤の増大

*新技術の _____ 過程自体の独占が決定的に有利

4. 独占企業による研究開発機構の保有・整備

自企業内に大規模・総合的な研究開発機構を保有

⇒組織的・系統的に新技術の発明・開発

⇒技術開発過程の _____ 化：

基礎科学研究の成果と社会化された生産過程の経験との相互交流・総合化の追及

(d) 非独占中小企業や個人による発明・開発

非独占中小企業や個人が発明・開発した新技術

⇒独占資本にとって有利なものは低価格で買収

製品販売市場・原料購入市場・資本調達市場において独占資本がもつ圧倒的な力が背景

⇒自企業の生産・販売戦略に適合するように改良・実用化を進めていく

=技術進歩の成果の _____

(e) 国家による科学・技術の研究開発

1. 帝国主義的対立

独占資本主義段階固有の帝国主義的対立

⇒ _____ 技術の急速な高度化の必要性

⇒国家による大規模かつ組織的な科学・技術の研究開発

⇒科学技術水準の飛躍的上昇

=歪められた方向(本質的に _____ ・ _____ 目的)

軍事技術の応用例

核兵器→原子力発電, 生物・化学兵器→,

軍事衛星→, ミサイル等→ _____ の実用化・改良・低価格化。

近年ではステルス技術のように民生用の Dual Use Technology の軍事利用

2. 独占資本と国家の関係

{ 国家の軍事研究開発予算の獲得・利用

{ 政府や大学などの研究組織との技術的・資金的・人的交流・結合・癒着

⇒技術開発の成果を _____ 獲得のために利用

3. 技術進歩の豊富な可能性

- { 社会化された研究開発組織のもつ開発能力
- { 研究開発に必要な設備や資金
- { それらによって生み出された成果

= 本来、労働・生産の _____ の進展の成果

⇒ 技術進歩の豊富な可能性

独占資本主義のもとでは独占企業に集中・独占される

⇒ 独占企業に固有の可能性・ _____ として現象

= 独占利潤の獲得のために動員

* 人類にとって真に有益かどうかの基準でなく . . .

② 技術開発能力の発展作用と反作用

(a) 開発された技術の利用

独占企業によって研究・開発される技術のなかで

利用され実用化される技術は？

⇒ 利潤増大・市場 _____ 確保に有利な技術のみ = 開発されたものの _____

とくに市場停滞下では、

労働者や国民大衆にとって必要で有意義な技術

But _____ 増大に有利でない ⇒ 採用されない or 採用が大きく遅延

(b) 分業の固定化による制約

- { 資本主義的分業の固定化による制約 = 精神的労働と肉体的労働の
- { 技術開発に積極的に参加する者の制限

⇒ 長期的には技術開発能力の源泉の _____

③ 開発される技術の性格

(a) 生産力発展の成果の利用に関する決定権

1. 生産力発展の本来的性格

新技術・生産力の発展

- { 一定の生産量 → 必要労働量の減少
- { 一定の労働量 → 生産量の増大

⇒ 労働の軽減・生活の向上・多様化の可能性

2. 生産力発展の成果の資本主義的利用

資本主義の下では、利潤増大を目的として

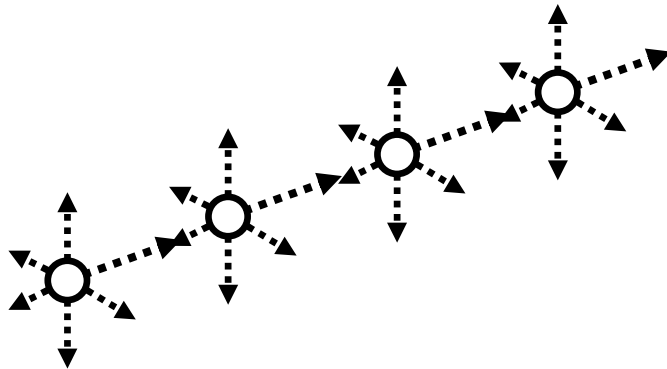
- 労働強化
- 労働内容の空疎化
- 労働分配率の低下
- 労務管理の強化
- 相対的過剰人口の累進的生産

(1. 投下資本の _____ 回収・特別剰余価値の早期獲得)

* 新技術・生産力発展の成果の利用に関する決定に労働者階級や開発者自身は参加 _____

3. 技術開発の方向の選択基準

本来、技術発展は多様な _____ をもっている！



どの方向への発展が選択されるか？

= どのような階級の人間がその選択に _____ できるか

これは、選択された方向に重大な問題点が発見された場合

→ 修正の必要性が明らかになった場合

- どのような修正の _____ が選択されるか？
- その選択はどのような _____ で行なわれるのか？
- いかなる _____ で行なわれるのか？

も規定する

(b) 「経済効率」という語の意味するところ

1. 技術発展の方向性の選択

独占資本主義において

生産力の発展方向の決定を行なう階級 = _____ 資本家階級

選択の第1の基準 = _____ の獲得・増大

- ⎧ 生産過程の安全性
- ⎧ 生産物の安全性
- ⎧ 産業廃棄物の排出(結合生産物)

これらすべてを含めた Input・Output比率＝生産性比較の視点はずももともと _____ している
労働災害・欠陥商品・公害等の問題発生の基盤

2. 選択の修正とその方法の決定

選択の問題点が明らかになり修正が加えられる場合

独占資本主義の枠内＝ _____ メカニズムと独占の支配

*問題点を生み出した _____ 自体は修正されない

⇒資本主義のもとでの _____ 発展における

深刻な人間・自然環境破壊の可能性とその解決の困難性の基盤

少数特権的階級に決定権が集中された体制

＝同様の問題が生じる可能性(ex.ソ連型社会主義)

(c) 軍事技術とそれに由来する技術

軍事力・軍事技術を中心とした技術開発

＝もともと _____ と _____ を視野に入れない性格・ _____ 的性格

ex.地雷, 劣化ウラン弾, クラスター爆弾・・・

核兵器および付随技術, 生物・化学兵器・・・

独占段階においては,

開発される技術の _____ 抑圧的・ _____ 社会的性格は競争段階に比べて格段に強化される

(2) 新生産方法の導入・普及 I

課題：市場が停滞的な場合の新生産方法の導入をめぐる独占企業の投資行動

条件：新生産方法が

1. 部門内外の独占企業によって自由に利用可能な場合

生産手段生産部門で生産性の高い機械設備が開発され商品化

外国で開発された新技術の導入

2. 特定の独占企業によって排他的・独占的に利用される場合

新技術の開発企業が特許や秘密保持により独占

*新しい生産物が発明・開発され新生産部門が創出される場合⇒第3章 第2節

① 新生産方法導入の誘因 — 競争的市場との比較

(a) 共通点

1. 特別剰余価値の取得

新生産方法導入⇒特別剰余価値の取得

ただし単一企業独占の場合⇒企業内で±が _____ ⇒特別剰余価値は _____

独占的市場では特別剰余価値増大に加えて

新生産方法によるコスト低下

⇒独占間協調において、導入企業の闘争力・発言力 _____ という誘因が追加

2. 新生産方法導入の誘因を弱める要因

[A] 旧式設備の残存価値

更新投資の際に新生産方法を導入

⇒旧式設備に残存価値があれば _____ 不足による損失

[B] 生産能力と販路

新生産方法→一般に生産能力の増大をもたらす

⇒販売拡大ができなければ稼働率 _____

⇒その分だけ利潤増大は _____

(b) 相違点

[A] 旧式設備の残存価値

1. 競争的市場

多数の個別企業の存在

{ 残存価値の少ない旧式設備を持つ企業
 参入企業(_____ を持たない)

による導入

2. 独占的市場

市場停滞の条件下では新投資は問題とならない

早期更新の可能性：獲得される特別剰余価値と残存価値廃棄による損失との比較考量

新生産方法による生産能力増大

→価格切下げによる販売拡大⇒価格 _____ の維持

{ _____ 競争の激化＝販売拡大のための費用(広告宣伝, 営業活動・リベート等)
 _____ の低下にともなう費用増大

⇒特別剰余価値は_____

i) 新生産方法が部門内企業のみによって利用できる場合

旧式設備の十分な償却(=投下資本の回収)後の_____において新生産方法導入

ii) 新生産方法による参入の可能性が高い場合

既存企業の予想限界利潤率も_____水準のはず

参入→既存設備の利潤_____

⇒参入阻止のため_____更新による新生産方法導入

[B] 生産能力増大と販路

1. 競争的市場

i) 当該部門の生産能力規模に比べて個別企業の生産能力の比重はきわめて小さい

⇒新生産方法導入による生産能力増大が生産総額・市場価格に与える影響は_____

⇒費用低下分の若干の安売り→販路拡張が可能

⇒残存価値の大小にかかわらず導入_____

ii) 導入による価格低下の既存設備に対する影響

他企業の新生産方法導入→価格_____は必然

⇒新生産方法の_____導入⇒特別剰余価値の獲得

*生産能力増大と販路の問題は障害とならない⇒新生産方法は早期に導入される

2. 独占的市場

i) 設備拡張投資による新生産方法導入

{ 生産設備 1 セットの巨大化
その部門の生産能力総量に占める比率の高さ

設備拡張投資による導入⇒旧生産方法による場合以上に生産能力_____

{ 価格切下げによる販路拡張⇒独占企業間の価格_____競争の可能性
協調の維持⇒稼働率の大幅 _____ = 利潤 _____

*新生産方法の存在⇒設備拡張投資の促進要因にはならない

導入が促進される場合

需要の一定の拡大や余裕能力の

⇒ 予想限界利潤率が投資基準利潤率に _____

新生産方法→費用価格低下 = 予想限界利潤率の _____ 要因

*新生産方法がない場合に比べて、設備拡張投資が _____ される

ii) 新生産方法の導入時期

旧式設備の十分な _____ 後の更新時期に導入

独占部門では新生産方法の導入が _____ される傾向

⇔競争部門(競争段階)

② 新生産方法導入の競争による強制作用 — 競争的市場との比較

一部の企業が導入した場合の他の企業の行動

(a) 競争的市場

1. 新生産方法の早期導入の促進

新生産方法の導入・普及

価値レベル：その部門の商品の価値低下→特別剰余価値の _____

市場価格レベル： ⇒生産量の増加 ・市場価格の _____ ⇒特別剰余価値・利潤の _____

* 特別剰余価値獲得のための早期導入の促進

2. 新生産方法の導入の強制

新生産方法の普及⇒市場価格の低下

⇒旧式設備にとって利潤率の低下・損失の発生

⇒損失を免れるための新生産方法の導入の _____

* 市場が停滞的で市場価格低下傾向の場合：この競争による導入強制メカニズムが _____

(b) 独占的市場

独占価格は基本的に維持：価格競争の回避→非価格競争は _____

1. 既存設備の償却後の導入

i) 特別剰余価値の獲得

新生産方法の導入が遅れても独占価格が維持されていれば

⇒獲得が期待できる特別剰余価値は減少 _____

なぜなら

新生産方法導入・普及→生産能力増大→供給量 _____ →市場価格低下→特別剰余価値の減少

ii) 早期更新による損失の考慮

α 新生産方法導入→生産能力 _____ →稼働率の _____ =利潤率の低下

β 旧式設備の残存価値の大きさ

α の利潤率の低下・ β の残存価値が大きいほど

早期更新によって獲得できる特別剰余価値は _____

* 旧式設備の廃棄・早期更新によって導入するメリットは小さくなる

iii) 競争の強制作用の弱化

新生産方法が普及しても独占価格が維持されれば、旧式設備の利潤率は低下 _____

⇒新生産方法の導入は強制 _____

2. 導入が促進される場合

新生産方法を導入した独占企業の増大

⇒独占価格水準の設定において、これらの企業の _____ が増大

⇒価格 _____ ・生産量 _____

⇒旧式設備の利潤減少

⇒新生産方法の導入促進

【補】 新生産方法導入の遅延と促進の例

LD 転炉(純酸素上吹き転炉)：オーストリアで開発，1952 年実用化

LD 導入の日米の違い

米国 1954 年：シェア 12 位のマクラウス製鋼が導入

1964 年：シェア 1,2 位の US スティール，ベスレヘム・スティールが導入

日本 1957 年：新日鉄八幡導入以降，次々に各社が導入

1967 年に粗鋼生産の 2/3，70 年に 8 割を占める

この違いをどう見るか？

50 年代後半～60 年代の日米の鉄鋼生産の生産性上昇率の差，

国際競争力の接近・逆転の要因

日米の企業行動・経営態度の違い？

* 独占企業の投資行動の _____

米国：50 年代＝停滞的，ケネディ政権下で景気上昇

日本：50 年代後半～70 年頃＝高度成長

市場条件の違い⇒独占企業の _____ 的な投資行動

③ 新生産方法の独占的・排他的利用の下での投資行動

新生産方法が，ある独占企業に独占・排他的に利用される場合

1. 新生産方法の率先的導入・普及の遅延傾向はいっそう強化

2. ライバル企業に対してコスト面で優位⇒競争力強化

* 独占企業は技術開発を強力に追及

(a) 技術進歩の遅延と死蔵

1. 既存設備の残存価値の十分な回収後の導入

新生産方法の独占的・排他的利用 ⇒利用できるのは当該企業のみ

⇒ライバル企業や潜在的参入企業の動向を考慮

導入によって獲得できる特別剰余価値と残存価値の廃棄による損失とを _____

既存設備の残存価値が大きい場合⇒導入は _____

* 独占的・排他的利用が確実であるほど既存設備の残存価値の十分な _____ 後に導入

2. 技術の独占的・排他的利用権の長期維持

i) 当該技術の確実かつ長期の独占的・排他的利用

独占的・排他的利用が確実・長期

{ 既存設備の残存価値の十分な回収
導入後の特別剰余価値の確実な獲得
部門内での発言力の強化

⇒独占企業による新生産方法の発明・開発

⇒特許や秘密保持によって長期に _____

ii) 代替的な技術や周辺技術・応用技術

代替的技術や周辺・応用技術の開発または買収

⇒独占的・排他的利用権を維持

=他の企業の利用を _____ (自らが利用しなくても)

⇒自らの独占的地位を維持

* 独占利潤が増大する限りにおいて技術進歩が現実化

=技術進歩の _____

⇒独占資本主義における技術進歩の遅延・死蔵

(b) 導入企業の競争力の強化 — 価格切下げによる販路・生産拡大の可能性

新生産方法の導入企業

⇒ライバル企業に対してコスト・生産性で _____

⇒ _____ を強化

* 生産能力増大⇒価格切下げによる販路拡大⇒稼働率維持・生産拡大の可能性

1. 独占的協調維持⇒価格切下げの場合

新生産方法が既存の方法に比べて格段に有利な場合

協調破壊＝価格競争の全面化の場合⇒ライバル企業は決定的に_____

＝導入企業の主張に従わざるをえない関係

独占的協調維持⇒導入企業に有利な価格_____

2. 独占的協調破壊⇒価格切下げ競争現実化の場合

i) 導入企業の攻撃的価格切下げ

新生産方法が画期的なもの⇒新旧設備で価格低下への_____に顕著な差

導入企業は長期間の価格切下げ競争を前提として

⇒大幅な価格_____＝ライバル企業を圧倒する攻勢に出る可能性

ii) 部門内企業の対応

代替的な生産方法の開発・導入の追及

特許権の獲得⇒技術内容の一部公開⇒より少ない開発費で代替的技術開発の可能性

価格切下げ競争という攻勢の選択

＝新技術の排他的利用の_____維持が確実な場合に限られる

iii) 新生産方法が普及する場合

他企業から特許使用料を得た方が有利な場合⇒一定期間後に特許を公開

{ ある企業が工程の一部について新技術を開発
他企業が別の工程について新技術を開発

⇒両者の技術を_____した方が有利になる場合

⇒クロス・ライセンス契約

(c) 部門外の独占企業による新生産方法の独占的・排他的利用

部門外の独占企業による独占的・排他的利用⇒新生産方法導入によって参入

1. 参入企業の優位性

既存設備をもたない優位性＋新生産方法による_____面での優位性

⇒優位性を背景として価格切下げをともなう参入

⇒既存企業を圧倒しながら自己の販路を拡大

2. 既存企業の対応

参入企業の優位性を相殺できるだけの強力な参入障壁が存在しない限り

新生産方法が画期的であればあるほど_____は困難

対抗的な価格切下げ⇒利潤率の大幅低下は不可避⇒参入_____

(d) 新生産方法導入の競争による強制作用

新生産方法の独占的・排他的利用＝他企業は同じ生産方法の導入は

⇒ _____ の生産方法や _____ な生産方法・技術の開発・導入が促進される可能性

1. 独占的価格協調が維持される場合

価格不変でも生産コストを低下させた導入企業の _____ の増大

⇒他企業に優秀な技術・生産方法の開発促進

2. 導入企業により価格切下げが行なわれる場合

価格切下げ競争の現実化⇒他企業に破滅の危険性

⇒より優秀な技術・生産方法の開発・導入を _____

3. 部門外の企業が排他的に利用できる場合

新生産方法の導入⇒参入期待利潤率 _____ 投資基準利潤率の場合

参入の実行⇒新生産方法の導入

価格切下げをとまなう _____

⇒既存独占企業に対してより優秀な生産方法の開発・導入を _____

④ 生産要素節約型の新生産方法の場合

新生産方法

- 1. 設備の _____ (一般的な場合＝今までの考察)
- 2. 生産要素の節約
- 3. 結合生産物の利用

2. 労働力や原材料などの生産要素を節約

3. _____ や _____ の利用

*いずれも産出量を産出量を増加させずにコスト

⇒生産能力増大と販路の問題は _____

⇒導入を遅延させる作用は _____

⇒既存設備の残存価値が少なくなれば

* _____ 更新投資による導入を促進

(3) 新生産方法の導入・普及Ⅱ

課題：産業需要の大幅な拡大が生じた場合の独占企業の新生産方法導入と結びついた設備拡張投資行動の考察

(2)で明らかにされたこと：

独占部門では、競争的市場に比べて新生産方法の _____ 導入やその _____ が遅れる諸要因が働く ⇔ これら諸要因は産業需要の急激で大幅な拡大が生じれば減少または消滅する

① 新生産方法が部門内外のあらゆる独占企業に利用可能な場合

(a) 新生産方法導入の遅延要因の減少・消滅

遅延要因とは？

既存の旧式設備に未回収の残存価値が存在する場合

1. 早期更新 ⇒ _____ 不足による損失

2. 新生産方法による設備投資 ⇒ _____ 増大

⇒ 市場停滞下では価格低下または稼働率の低下 ⇒ 特別剰余価値の _____

⇒ 既存設備の残存価値の大小により導入遅延

[A] 既存設備の残存価値

需要の大幅拡大 ⇒ 新規設備拡張投資

= 既存設備の廃棄の必要 _____

= 残存価値の大小は問題とならない

[B] 生産能力増大と販路の問題

新生産方法による設備拡張 ⇒ 生産能力増大 → 生産・供給量増大

需要の大幅な拡大の程度によって

価格・稼働率が低下しない or _____ する可能性

生産能力増大と販路の問題：需要拡大の程度によって減少または消滅

(b) 特別剰余価値・利潤の長期・大量の獲得

需要の大幅拡大の予想 ⇒ 率先的な新生産方法導入による設備拡張

{ 需要拡大のより大きな部分の獲得 = _____ による利潤増大の実現
特別剰余価値の長期・大量の獲得

(c) 新生産方法による参入の可能性

⇒ 参入阻止のための _____ 導入のインセンティブ

1. 参入障壁(A)・(C_A)

参入による生産能力増大 → 需要拡大で吸収

⇒ 稼働率・利潤率は低下しない or 上昇する可能性

⇒ 参入障壁(A)・(C_A)の _____ または _____

2. 参入障壁(B)・(C_B)

新生産方法による参入が実行される場合

既存独占企業が新生産方法を導入しなければ

⇒参入企業の方が生産条件で _____

⇒参入障壁(B)・(C_B)が低下または消滅

いずれの場合も参入の危険性が _____

(d) 設備拡張投資競争の促進

1. 需要拡大の規模が部門内企業すべての設備投資が可能な場合

⇒各企業は _____ 設備投資

= _____ の増大と _____ の確保・増大を追及

2. 過剰生産能力の発生が確実な場合

需要拡大の規模：

{ すべての企業が設備拡張を実行
{ 独占価格水準を維持

⇒部門全体として意図せざる過剰生産能力が発生する場合

i) 新生産方法の導入企業

新生産方法による生産力の上昇＝コスト低下を利用して

協調的な価格 _____ ⇒需要増大・販売量増大

⇒高い稼働率の維持・利潤の確保が可能

ii) 新生産方法の非導入企業

ある企業が過剰生産能力の発生を考慮して新生産方法による設備拡張を行なわなかったら？

{ 市場シェアの _____
{ 生産条件(生産能力・生産コスト等)の _____

⇒独占企業間協調における交渉力の _____

⇒利潤率の大幅な _____

部門内の多くの独占企業が設備投資を行なえば過剰生産能力が発生することが明らかな場合でも

{ 市場シェアの _____
{ 生産条件における _____ の維持

⇒新生産方法導入による設備拡張投資 _____ の促進

以上をまとめると、

独占企業がもつ大規模な設備拡張投資を行なう潜在的能力と意欲の現実化

→ 激しい設備拡張投資競争の展開による新生産方法の導入と普及

→ 市場の _____ を超える生産能力の拡大

⇒ 過剰生産能力の発生

という傾向が競争的市場におけるよりはるかに強力に現れる。

② 新生産方法の独占的・排他的利用

(a) 新生産方法を独占的・排他的に利用できる独占企業

1. 特別剰余価値・利潤の独占的獲得

需要の大幅拡大⇒新生産方法による設備拡張

{ 価格・稼働率 _____
特別剰余価値の _____ 的獲得

2. 市場シェアの上昇

新生産方法が画期的で生産性が格段に高い⇒ライバル企業は設備拡張投資を _____ → (b)

{ ライバル企業の行動の考慮
需要拡大の動向の慎重な予測

設備拡張投資の実行⇒市場シェアの急速な上昇

(b) 他の独占企業の行動

1. 新技術の開発・実用化の追求

導入された新生産方法と同等あるいは凌駕する新技術の開発・実用化を追求

各独占企業は大規模な研究開発機構を保持し

ライバル企業の動向をみながら技術開発を追求

⇒同様の技術開発に成功する可能性は _____

2. 旧生産方法による設備拡張投資の実行

新技術の開発が遅れる場合

⇒市場シェア維持のための設備拡張投資＝旧生産方法に巨額の資本を _____

⇒導入企業による長期にわたる価格 _____ 圧力

3. 既存設備の稼働率上昇による生産拡大

ライバル企業の合理的行動

i) 既存設備の稼働率の可能な限りの上昇

⇒生産・販売量の増大⇒市場シェア低下の _____

ii) 優れた生産方法の開発の追及

需要拡大が継続中に開発に成功

⇒過剰生産能力の発生覚悟で設備拡張投資を _____

⇒市場シェア _____

(c) 設備拡張投資競争の抑制

新生産方法が特定の独占企業に独占的・排他的に利用される場合

- { 新生産方法の導入・普及
- { 設備拡張投資競争の展開の可能性

独占企業間の競争＝より優秀な生産方法の _____ 競争

⇒開発が成功した場合

シェア奪回のための設備拡張投資 _____ の展開

- { 大量の過剰生産能力の発生
- { 価格切下げによる協調の破壊